

職場における交通安全指導 Part.37

事故事例に学ぶ... 6

対二輪車事故

左側を進行中の二輪車が突然進路変更し自車両と衝突

事故の概要

発生状況

日 時:平成10年7月某日 午前1時30分
天 候:晴れ
発生場所:横浜市鶴見区内

事故の当事者

A(大型貨物車):年齢36歳・男性
B(二輪自動車):年齢17歳・男性

被害状況

B:重傷

事 故 状 況

運転者Aは、早朝の積込みのため深夜大型貨物車(10t)を運転し、大黒埠頭に向かった。途中生麦方面より大黒埠頭方面に向かい、時速約60kmで走行中、前方約50mに二輪車(バイク)2台が縦列走行しているのを認めた。追抜きしようと同速度で進行、二輪車との間が約3mに接近した時、前の二輪車が突然右に進路を変更しA車の直前に出たため、危険を感じ急ブレーキをかけたがハンドルを右に切ったが及ばず、車両の前部が二輪車に衝突し、運転していた高校生に瀕死の重傷を負わせた。

事故現場の環境等

現場は、生麦方面から大黒埠頭に向かって大黒大橋より約1kmの付近で、道路の両側は大きな工場群である。また、現場道路の上は並行して首都高速

道路が走り、夜間は他の道路よりも照明が多く比較的明るかった。

この付近は、深夜から早朝にかけて暴走族等が頻繁に出没、暴走行為を繰り返すため、路面にはブレーキ痕跡が多く、本事故の調査の際、契約車両に該当するタイヤブレーキ跡を探すのに苦労した。

運転者Aの話

当日は、早朝出発の荷物を積込むため大黒埠頭に向かっていた。同時刻は閑散としており走っているのは自分の車両だけであった様に思う。

制限速度40kmは知っていたが、通り慣れた道でもあり、60kmぐらいで走行していた。

道路左前方に2台のバイクを認めたが、まさか自分の直前でUターンするとは思わなかった。

職場における交通安全指導

夏は夜間でも二輪車に乗った若者が多く見受けられます。したがって、このような事故を無くすためにも二輪車の特性をよく知っておくことが大切です。

二輪車の特性

二輪車は手軽で便利な乗物ですが、構造や運転特性が四輪車とは全く異なることをよく頭に入れておく必要があります。

1. 車線変更など運転に変化が多い

二輪車は機動性に富み、微妙な体重移動で進

路を変えることができるので、頻繁な車線変更や急加速などの行動をしがちです。

この事故も、深夜走行の二輪車が、方向指示器の合図もなしに急に進路を変え自車の前方に進出したために発生したものです。

追抜く場合には、二輪車の速度と動向を特に注意し、自車の速度と二輪車との間隔に十分な余裕を取ってください。

2. 見落とされやすい二輪車

ドライバーは車体の小さい二輪車を見落としやすく、また、死角に入って全く見えないことも少なくありません。しかし二輪車は、周囲の車は自分を当然認識しているものと思い込んで運転をしています。

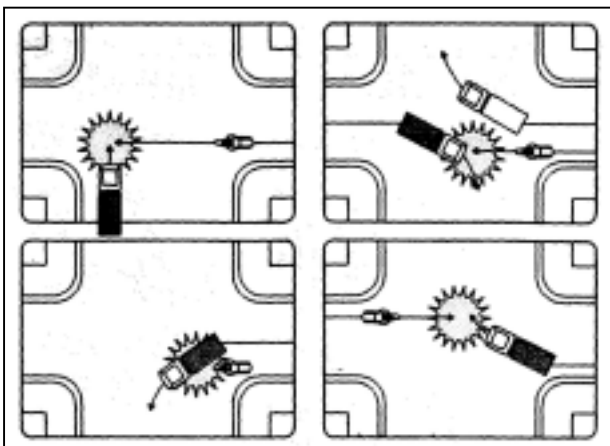
「この車の後ろからバイクが…」の気持が大切です。

3. 全身を露出し、天候に左右されやすい

二輪車はバランスをとって乗る乗物ですので、ちょっとした接触でバランスを崩し転倒しやすく、そのうえ全身が露出しているのも手伝って大事故になることが多いようです。

また、雨や風の影響を受けるとバランスを崩しやすく、危険が増大します。視野も極端に狭くなり注意する範囲も狭くなります。

したがって、周囲のドライバーが十分に注意し事故を防ぐことが大切です。



対二輪車の事故多発パターン

1. 右方向からの二輪車に要注意(速度を過少評価しないこと)

対二輪車事故で最も多いのは、信号機のない交差点での出合頭の衝突事故です。その中でも、右方向から進行してきた二輪車に気付くのが遅れて衝突したというケースが多発しています。

また、進行してくる二輪車を認めたときは、相手が小さいため、速度を過小評価しやすいということをしっかり認識し、性急な判断や行動を慎むことが必要です。

2. 対向右折車や、駐停車車両等の陰にも要注意

交差点付近に駐停車車両がある時は、その陰から進行してくるかもしれない二輪車を想定し、確実にチェックすることです。

右直事故も、対二輪車の多発パターンのひとつです。特に、信号機のある交差点で右折する時は、対向右折車の後方の陰から直進して来る二輪車の有無を確実にチェックすることが必要です。

3. 左折巻込みにも要注意

さらに左折の際は、側方の死角に入り込んで来る二輪車の有無をチェックし、合図は進路変更の3秒前、交差点の30m手前で行い、その間に、再度二輪車の有無を確認する等、念には念を入れて左折することが大切です。

我々トラックドライバーは、二輪車は勿論のこと、歩行者など交通弱者を思いやる運転に心掛けましょう。